

ブラジル日本商工会議所 業種別フォーラム 「自動車部会」レポート

2020年11月26日

< 2020年の回顧とコロナ時代への対応 >

コロナ時代にどう立ち向かうか

➤ 四輪業界動向

1. 2020年 振り返り・予測
2. 長期展望 重要テーマ・日系ブランドの対応
3. コロナ時代への対応
4. 総括

➤ 二輪業界動向

四輪業界動向

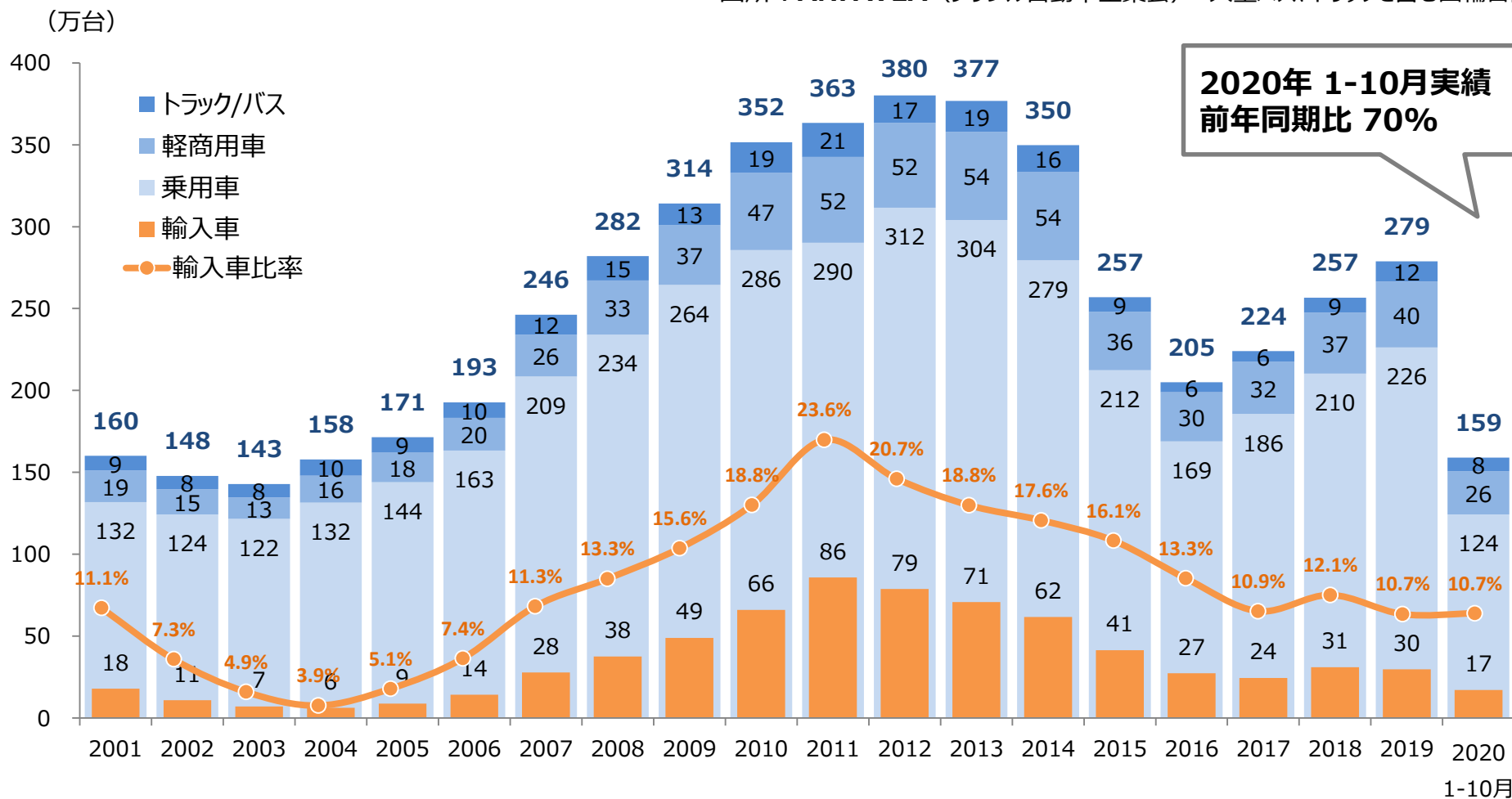
1. 2020年 振り返り・予測
2. 長期展望 重要テーマ・日系ブランドの対応
3. コロナ時代への対応
4. 総括

四輪業界動向

1. 2020年 振り返り・予測
2. 長期展望 重要テーマ・日系ブランドの対応
3. コロナ時代への対応
4. 総括

1. 2020年 振り返り – 販売台数 推移

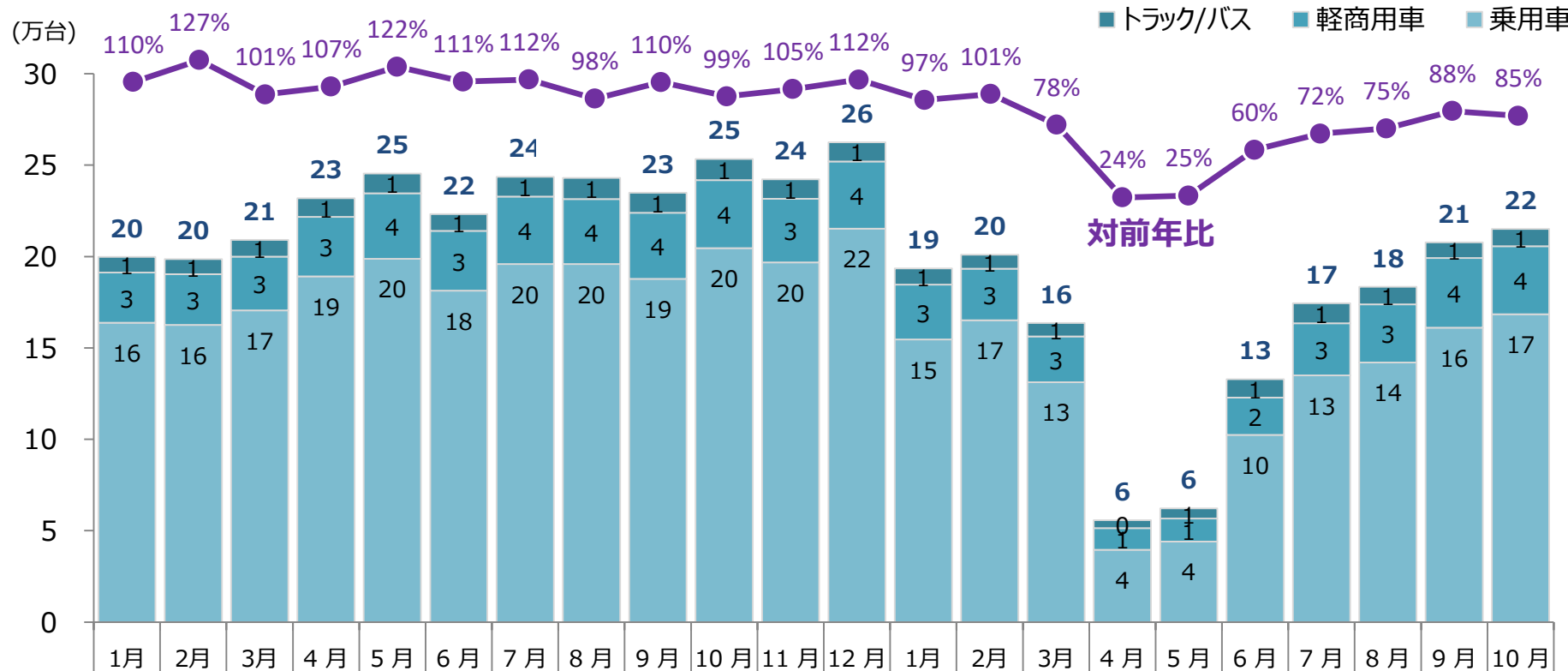
出所：ANFAVEA（ブラジル自動車工業会） 大型バス、トラックを含む四輪合計



- 20年1-10月の四輪総市場は159万台（前年同期比70%）と、Covid-19影響を受ける
- 輸入車比率は11%と、前年同程度水準

1. 2020年 振り返り 一月別販売台数 推移

出典：ANFAVEA 大型バス、トラックを含む四輪合計



279万台（前年比108.6%）
 ダイレクトセールス比率 **46%**

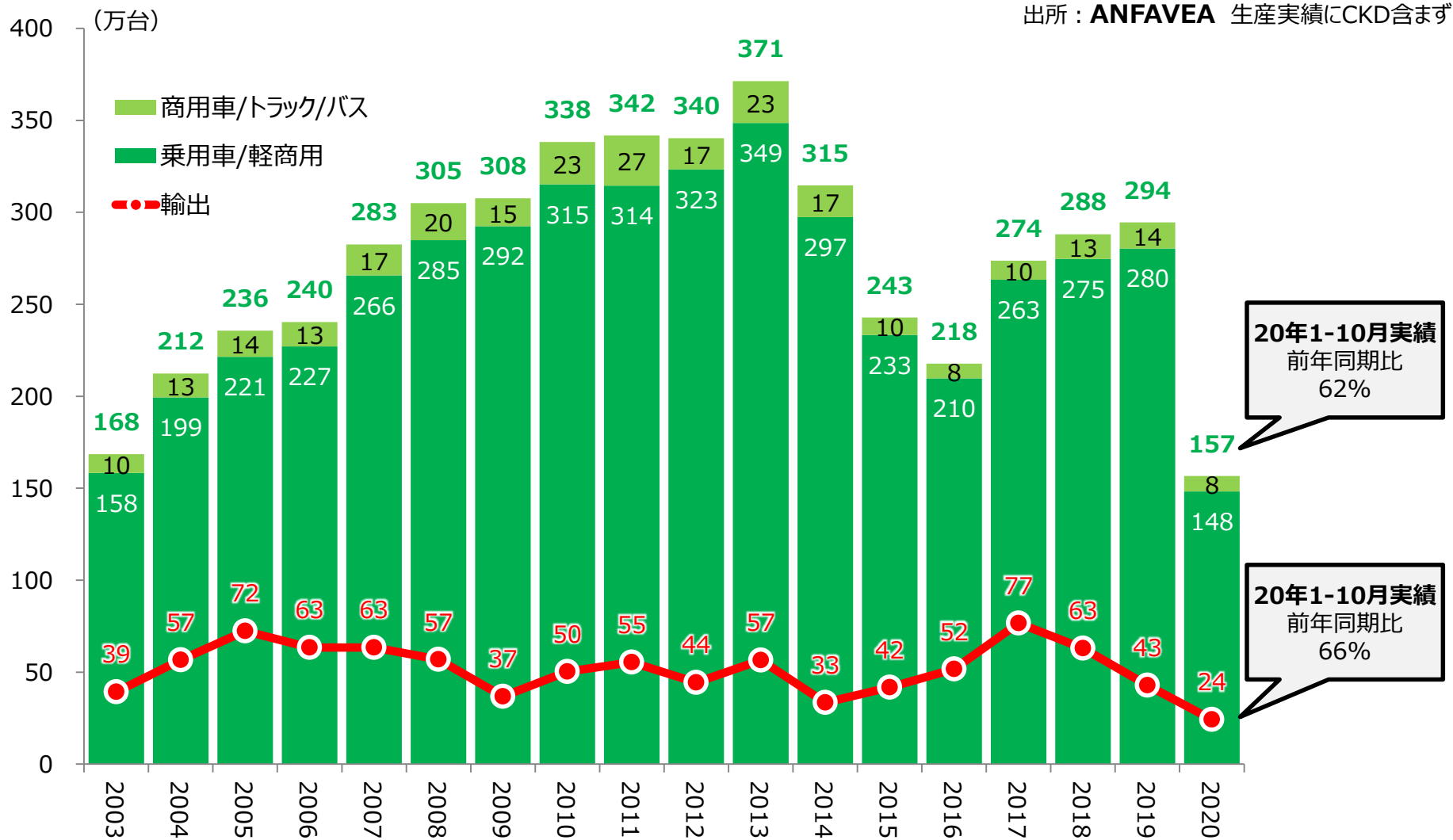
2019年

159万台（前年比69.6%）*1-10月
 ダイレクトセールス比率 **43%**

2020年

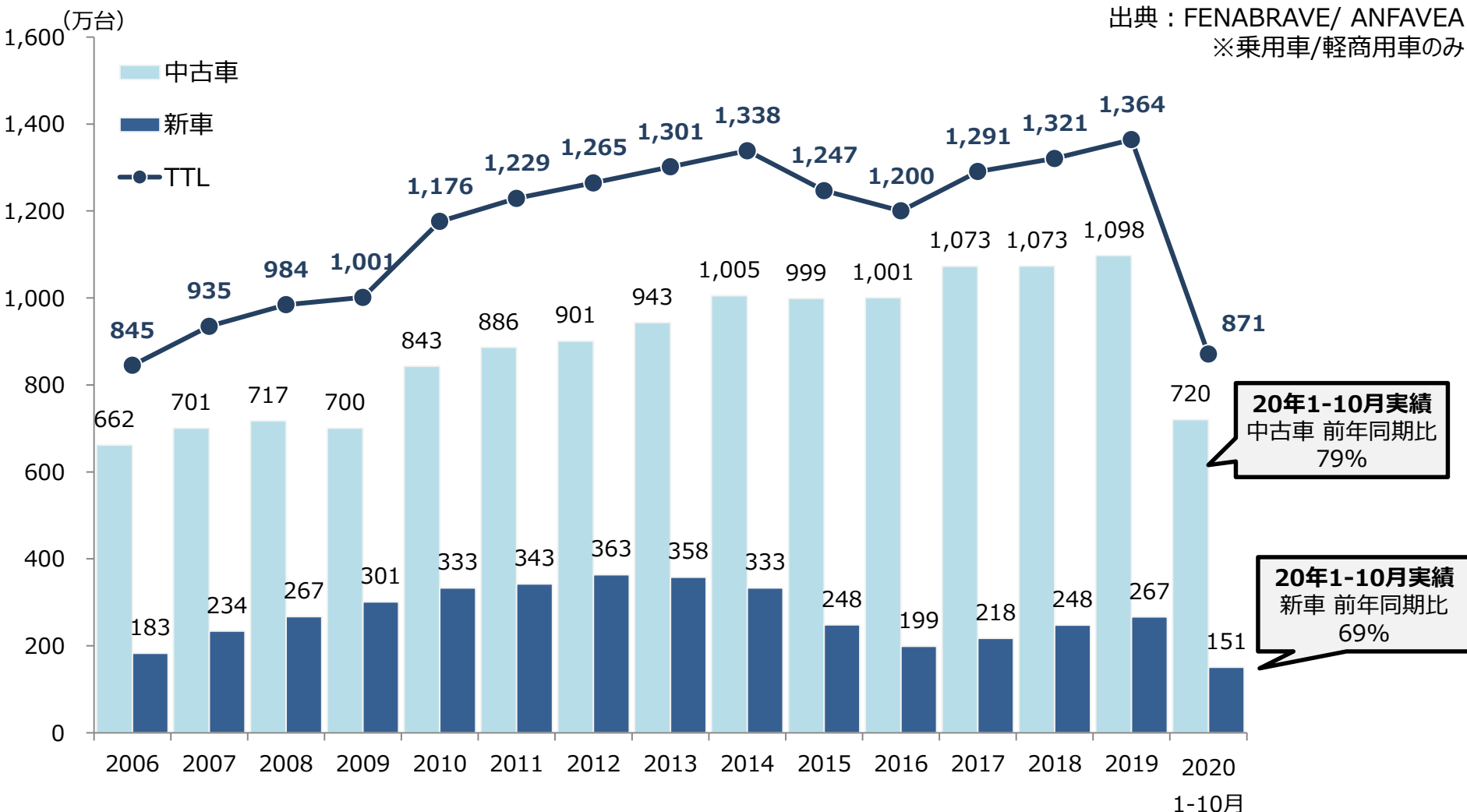
- 20年3月からCovid-19影響で販売は大きく落ち込む。経済活動再開により6月以降は回復傾向
- 法人・個人事業主向け、ハンディキャップのお客様向けの販売が市場を牽引（ダイレクトセールス）

1. 2020年 振り返り – 生産・輸出台数 推移



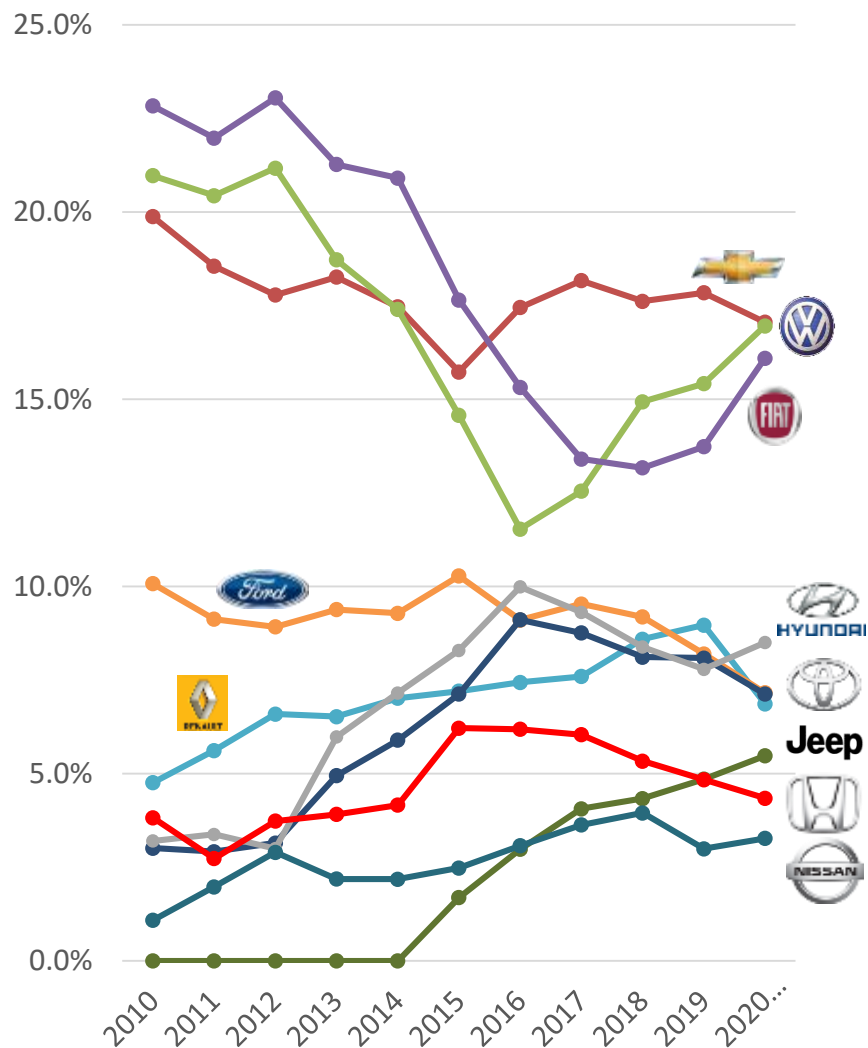
- 20年1-10月の総生産台数は Covid-19影響で落ち込み 前年同期比62%の157万台
- 輸出も同様に落ち込み、前年同期比66%の24万台

1. 2020年 振り返り – 自動車業界(中古・新車)



- 中古車市場もCovid-19影響により対前年同期比79%の720万台
- 新車市場と合わせ、計約870万台、新車の落ち込みは中古車を上回る

1. 2020年 振り返り – ブランド別シェア



単位：万台、トラック・バス除

'19	台数	シェア
1	47.6	17.9%
2	41.1	15.4%
3	36.6	13.7%
4	23.9	9.0%
5	21.9	8.2%
6	21.6	8.1%
7	20.8	7.8%
8 Jeep	12.9	4.9%
9	12.9	4.8%
10	8.0	3.0%

'20年は1-10月

'20	台数	シェア
1	25.7	17.1%
2	25.6	17.0%
3	24.3	16.1%
4	12.8	8.5%
5	10.8	7.2%
6	10.7	7.1%
7	10.4	6.9%
8 Jeep	8.3	5.5%
9	6.6	4.3%
10	4.9	3.3%

- VW/Fiat/Hyundai/JeepのシェアUPにより、日系ブランドのシェアは微減。
- VWは新型車T-Cross,Nivus効果、Jeepはダイレクトセールス増によりシェアアップ

1. 2020年予測 – 自動車業界

出典：ANFAVEA 生産実績にCKD含まず

◆ ブラジル市場・輸出・生産の2020年予測

単位：万台

	2019年 最終結果	2020年 年初予測		2020年中間修正予測		
		ANFAVEA (1月発表)	自動車部会	ANFAVEA (10月発表)	自動車部会	
国内 市場	トラック・バス 含む総合計	279 前年比：9%	305 前年比：+9%	296 前年比：+6%	193 前年比：-31%	202 前年比：-28%
	トラック・バス 除く合計	267 前年比：+8%	291 前年比：+9%	283 前年比：+6%	183 前年比：-31%	191 前年比：-28%
輸出台数	42 前年比：-32%	38 前年比：-11%	38-a	28 前年比：-34%	28±a	
生産台数	294 前年比：+2%	316 前年比：+7%	316-a	192 前年比：-35%	192±a	

- 自動車部会はANFAVEA同様にCovid-19による約30%の市場縮小を予測
- 輸出台数は、Covid-19影響やアルゼンチン等の市場縮小を背景に、大幅前年割れを予測
- 将来的なポテンシャル市場である事に変わりなし。
早期需要の回復に向け 各社の企業努力に加え、産業を下支えする様な政策にも期待したい

四輪業界動向

1. 2020年 振り返り・予測

2. 長期展望 重要テーマ・日系ブランドの対応

3. コロナ時代への対応

4. 総括

<重要テーマ>

- 自動車政策 Rota 2030
- 排ガス規制 Proconve
- モビリティサービス CASE
- EPA 日メルコスール間
- 税体系簡素化

2. 日系企業としての対応

◆ 自動車政策 Rota 2030

- ・税恩典を最大限活用し競争力維持へつなげる

◆ Proconve 排ガス規制

- ・L7(22年～) 自工会と政府当局の延長交渉を注視。
- ・L8(25年～) 欧米に比べても非常に厳しい規制レベルとの認識。
厳しいビジネス環境下で過大投資につながる内容
一部細目未定。正しい方向へのロビー必要。

◆ モビリティサービス CASE

- ・将来拡大が見込まれるシェアリング、電動化、コネクティッド等のへの備え

◆ 税体系簡素化

- ・政権が掲げる税制の簡素化を後押し
例) PIS.COFINS二重課税訴訟の決着、複雑なIPI税制簡素化等、

◆ 日-メルコスールEPA

- ・ブラジルにおける日系メーカーの競争力強化のため政府に働きかけを継続

2. 日系企業としての対応 -Mobility 事例 (トヨタ)

➤ モビリティサービス会社 KINTO 設立 (三井物産殿との協業)

KiNTO ONE

BENEFIT FOR CUSTOMER

COST

- ✓ Best offer for Toyota car
- ✓ **Competitive in TCO** than ownership

Total Cost of Ownership



CASHFLOW

- ✓ **No initial investment**
- ✓ Use Toyota cars with monthly payment



LEAN

- ✓ **Reduce burden** of fleet management
- ✓ Focus on core business

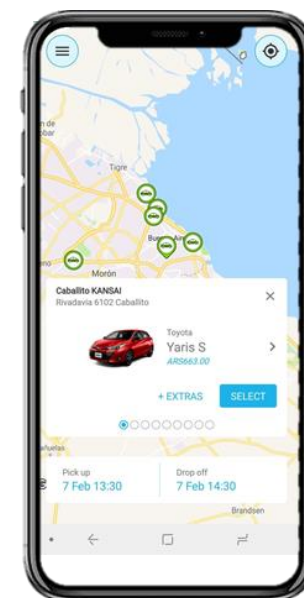


① KINTO ONE

企業向けフルサービス
リース

② KINTO SHARE

個人ユーザー向けレンタカー
サービス



四輪業界動向

1. 2020年 振り返り・予測

2. 長期展望 重要テーマ・日系ブランドの対応

3. コロナ時代への対応

4. 総括

3. コロナ時代にどう立ち向かうか

コロナ後の変化点	ネガティブ	ポジティブ <small>出典：下期自動車部会でのヒアリング</small>
<p>働き方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オフィス環境 ・製造現場 ・販売現場 	<p>■ 製造面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染対策中（フェイスシールド）暑さ ・当局のAudit対応 <p>■ 販売面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お客様のところに行けない （意向確認してから） お客様ニーズを考える機会に 	<p>■ リモート会議・ホームオフィス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思ったよりも機能する ・ブラジルの国民性にあっている、自発性も <p>■ 出張費等の経費削減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本からの支援なくてもリモートで ・現場にカメラを入れリモートでフォロー <p>■ プロトコル展開で感染防止に成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ディーラー、生産現場、サプライヤー含めて
<p>事業運営</p>	<p>■ サプライチェーン、物流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資材入手困難に（市場・生産性低下より） ・資材値上がり ・船の遅れ発生、Airで対応もコスト高 <p>■ 為替レアル安</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現地調達を進めたいが投資要 ・現地調達のため部品の現地仕様への変更要 <p>■ 労務費負担</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕事量減る中テンポラリー契約できず 	<p>■ 底堅い商品も</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タイヤの販売は前年超え （安いブランドに移る傾向あるが、、、） <p>■ 輸出は利益増</p> <ul style="list-style-type: none"> ・為替安で周辺国への輸出は利益増に （輸出ビジネスは少ないが、、、）

四輪業界動向

1. 2020年 振り返り・予測

2. 長期展望 重要テーマ・日系ブランドの対応

3. コロナ時代への対応

4. 総括

4. 総括 – 本日のまとめ

2020年実績・予測

- 2020年1-10月新車市場は**159万台と前年比79%**。**Covid-19影響甚大**
ダイレクトセールス比率は43%と高止まり。新車通年市場予測は202万台レベル。82%
- **生産は62%、輸出は66%**。Covid-19影響による生産休止が影響
- **足元新車販売は対前年比85%まで回復するも、不確定要素あり今後も注視必要**

足元コロナ時代への対応 = 新たな環境変化

- **販売・生産・オフィス働き方** 感染対策、リモートを活用した新しい働き方の導入
- **調達** 資材入手性が難しく、輸送手段が限られる中でのサプライチェーン対応

長期視点での対応 = 基本的に方針・ブラジル市場のポテンシャルに変化なし

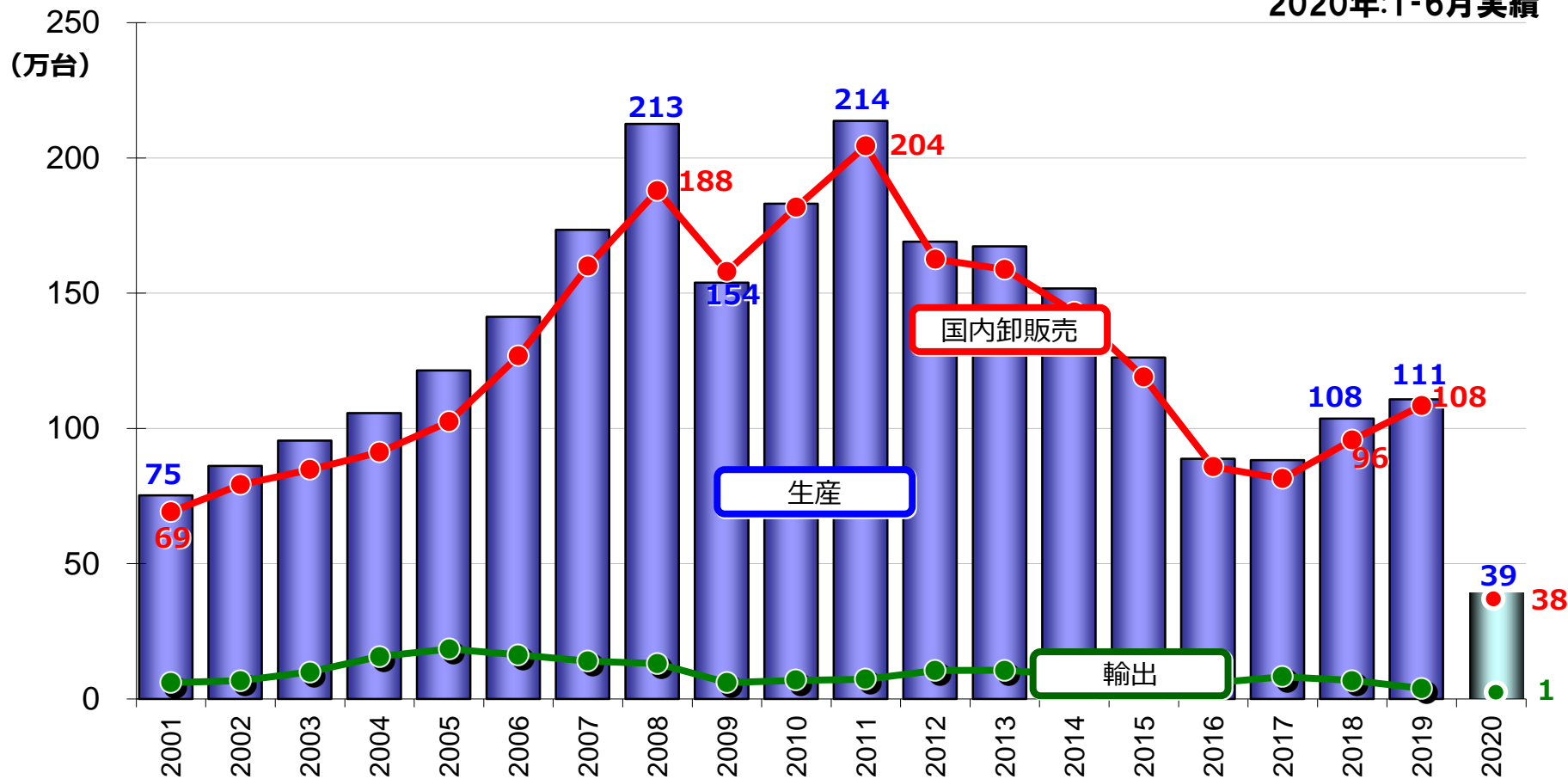
- 長期的視点に立ち、**より一層 為替変化に強い事業体質づくりを継続**
→部品現調化、生産性向上などでコスト低減、輸出促進を計る
- **排ガス規制Proconveは現実に即したものにすべく、当局への理解活動を継続**
- 新自動車政策ROTA2030への対応 →投資・燃費向上・安全装備適用等
- 将来拡大が見込まれるシェアリング、電動化、コネクティッド等の分野への展開
- 税体系簡素化、日メルコスールEPA締結への政府後押し

二輪業界動向

二輪車 生産・販売 推移

出典:Abraciclo

2020年:1-6月実績



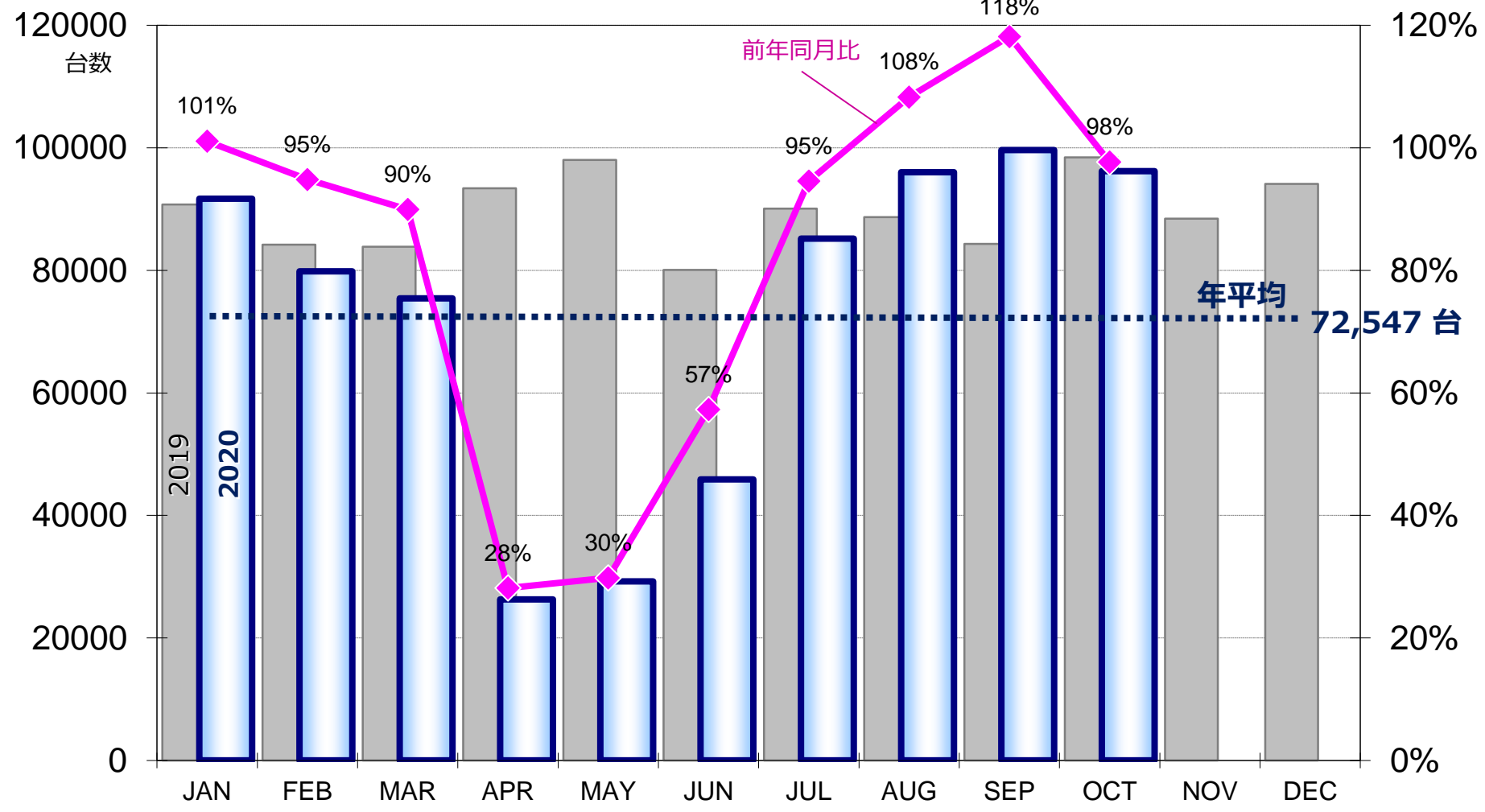
2020年 (1-6月) 実績

卸: 38万台 (前年比 71%)
 生産: 39万台 (同 73%)
 輸出: 1万台 (同 51%)

1-6月実績はCovid-19影響で卸・生産共に対前年7割アルゼンチン等隣国も低調で輸出は5割に留まる

二輪車 月別登録推移 (2019年vs2020年)

登録データ(DETRAN)

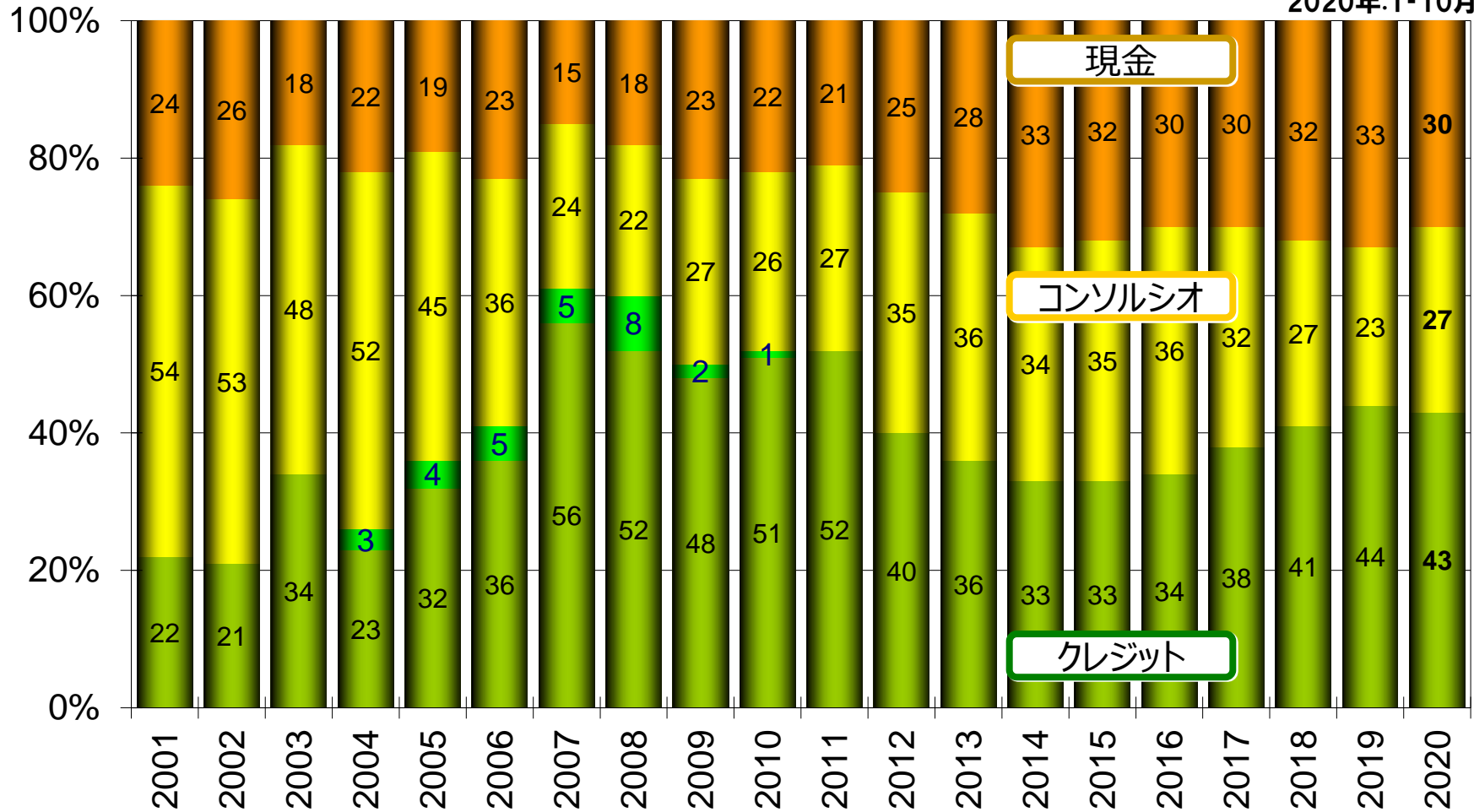


2020年はCOVID-19の影響で落ち込むも、足元では前年レベル迄回復

二輪車 支払形態別 販売比率

※出典: ANEF(自動車メーカー系金融会社協会)

2020年:1-10月実績



歴史的な低金利により、クレジット拡大
今後注視必要

ご清聴ありがとうございました